



大阪市電気科学館竣工

現代科学文明の先驅をなす電気科学が人類生活に寄與する處は頗る大なるものがある。電気科学館は大阪市が、我國産業の中樞たる大都會とし又電気事業總管上の責務重大なるに鑑み、一般市民に對する電気知識の普及向上、並に電気利用の促進を圖り、以て電気事業の健全なる發達に資するは勿論、産業の開發と生産能率の増進を期する目的から建築せら

れたものである。建築の規模及用途は次の通りである。

工事概要

位置 大阪市四ツ橋々畔
構造 近代式鉄骨鉄筋コンクリート造。
階數 地下1層 地上8層、塔屋7層。



地上30.85メートル。

- 地階 食堂、電気機械室、作業室、其他
- 1階 陳列所、相談所、試験場其他
- 2階 電気館（弱電無電館、來賓室、事務室）
- 3階 電気館（電力電熱館）
- 4階 電気館（照明館）
- 5階 電気館（電気原理館、圖書室、研究室）
- 6階 天象館。
- 7階 同待合室。
- 8階 事務室。
- 9階 屋上遊歩場、大地球儀。
- 10階より15階までは防空塔で頂部には神宮遙拜場が設けてある。

電気館は本館の中樞を爲すもので、その陳列品の大部分が動的實驗装置を以て高遠なる原理を平易に説明理解せしむるのである。

天象館は天象儀(プラネタリウム)を設備して、長時日を要する天體星空の運行變化を短時間に如實に現映し、其間永遠の晝、無終の夜、極光等偶目の機会を得がたき大空の現象を觀賞せしむるのである。而して此の天象儀は電気による照明と動力を遺憾なく利用した精巧な装置である。

寫眞は前頁が竣工した電気
科學館正面、上は同じく
その背面で、下は1階
の平面圖である。

